

# 堀川浄化の社会実験の状況について

- ・導水実績
- ・名古屋市による調査結果

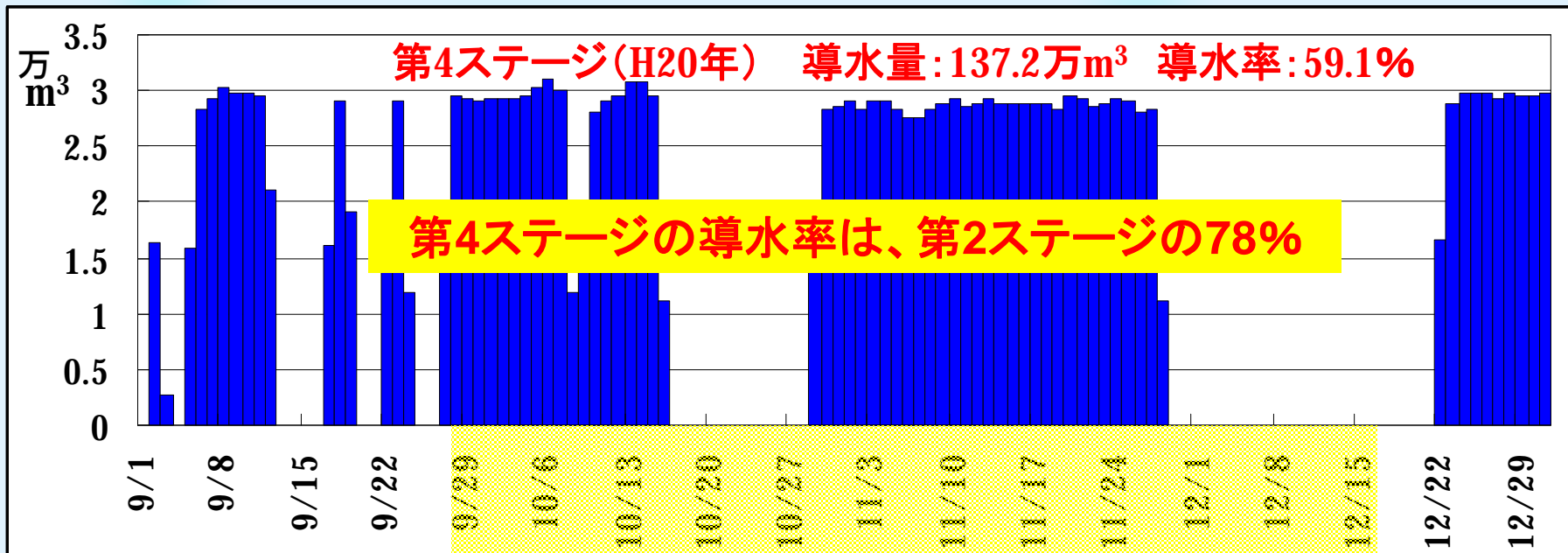
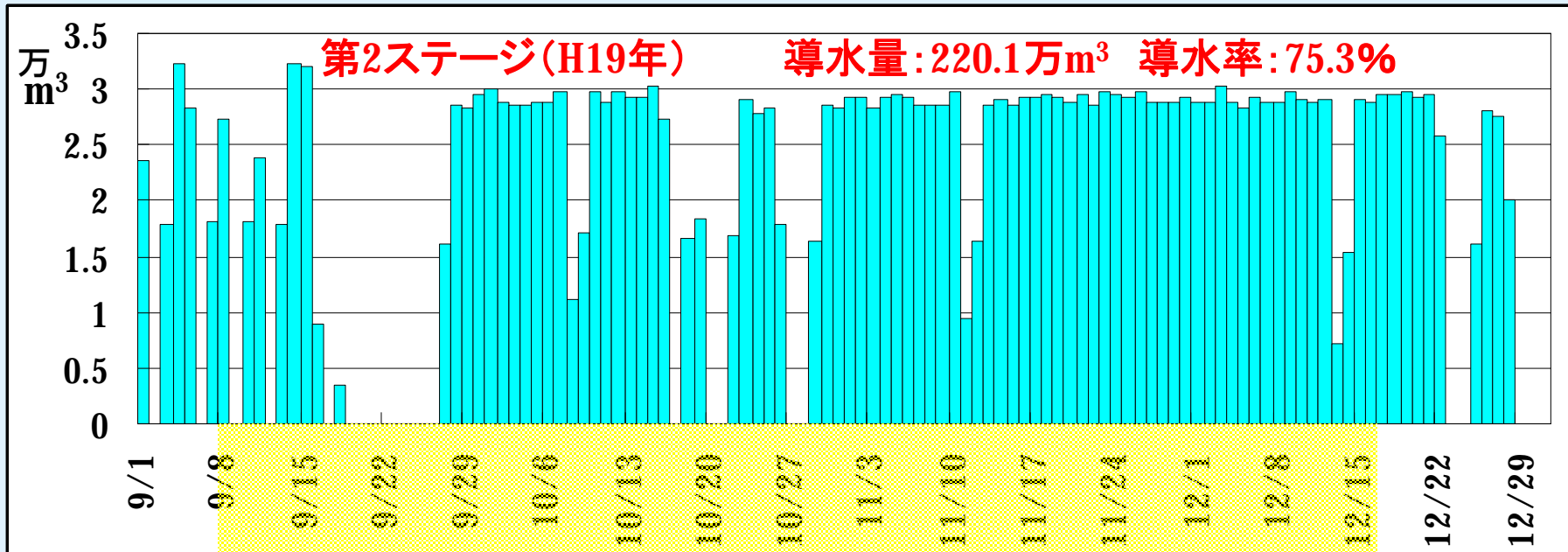
名古屋市緑政土木局河川部堀川総合整備室

## 導水状況(平成21年1月末現在)

	H19.4.22 ~H19.6.30 1stステージ	H19.9.8 ~H19.12.16 2ndステージ	H20.4.1 ~H20.6.30 3rdステージ	H20.9.28 ~H20.12.16 4thステージ	総計
導水時間(hr)	1,081.3	1,807.3	1,784.4	1,135.0	9,905.9
停止時間(hr)	586.7	592.8	399.4	785.0	5,707.3
渇水(hr)	302.1	0.0	67.0	0.0	2,124.4
大雨(hr)	284.6	342.3	142.8	0.0	1,605.9
その他(hr)	0.0	250.5	189.6	785.0	1,977.0
導水可能時間(hr)	1,668.0	2,400.0	2,183.0	1,920.0	15,611.0
導水率(%)	64.8	75.3	81.7	59.1	63.5
導水量(m <sup>3</sup> )	1,360,300	2,201,200	2,184,000	1,372,200	12,128,800
ナゴヤドーム杯数	0.8	1.3	1.3	0.8	7.1

	H19.4.22 ~H19.6.30 1stステージ	H19.9.8 ~H19.12.16 2ndステージ	H20.4.1 ~H20.6.30 3rdステージ	H20.9.28 ~H20.12.16 4thステージ	総計
導水日数	45.1	75.3	74.4	47.3	412.8
停止日数	24.4	24.7	16.6	32.7	237.7
渇水	12.6	0.0	2.8	0.0	88.5
大雨	11.8	14.3	6.0	0.0	66.9
その他	0.0	10.4	7.9	32.7	82.3
導水可能日数	69.5	100.0	91.0	80.0	650.5

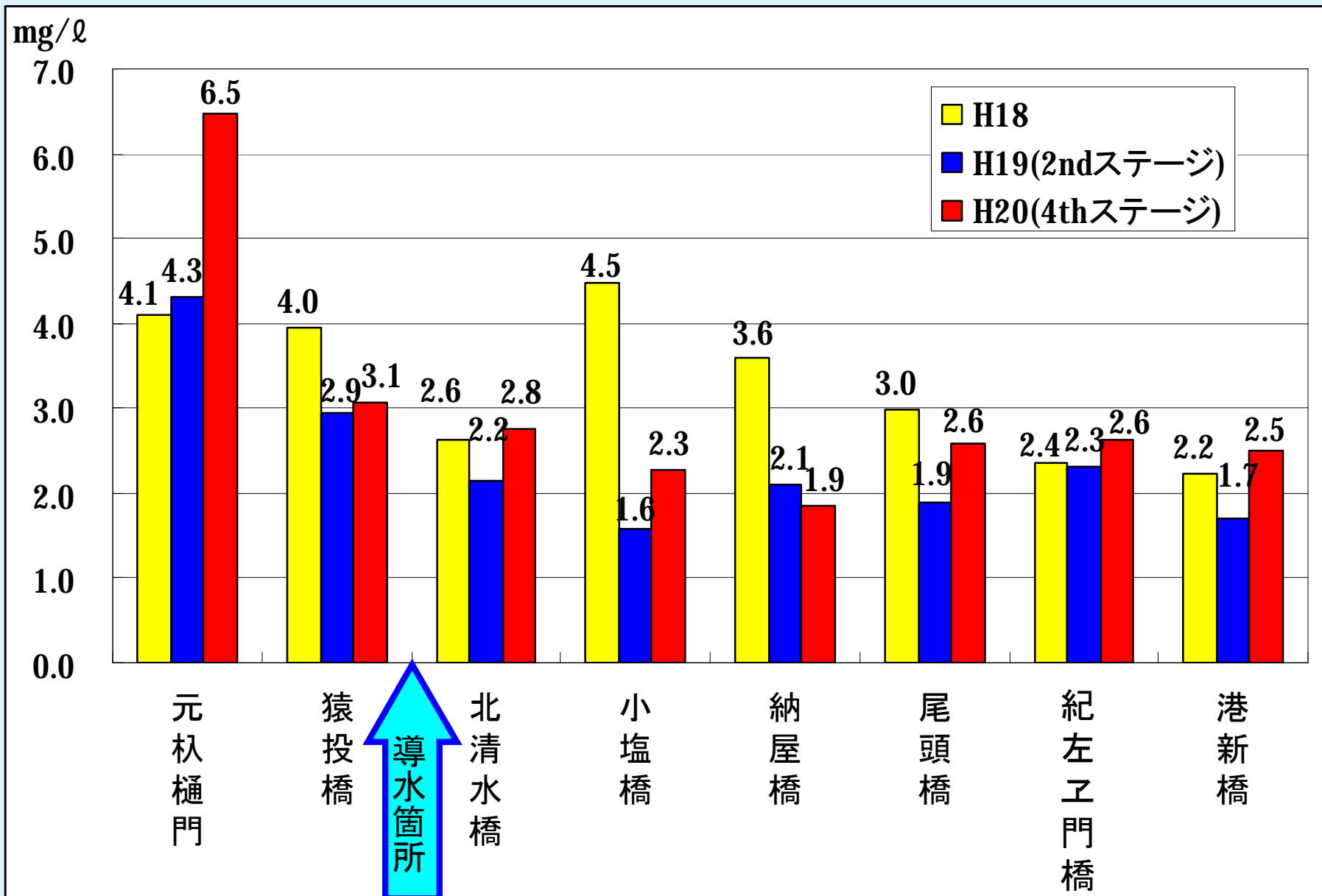
# 導水状況グラフ



# 行政調査の 主な調査箇所図

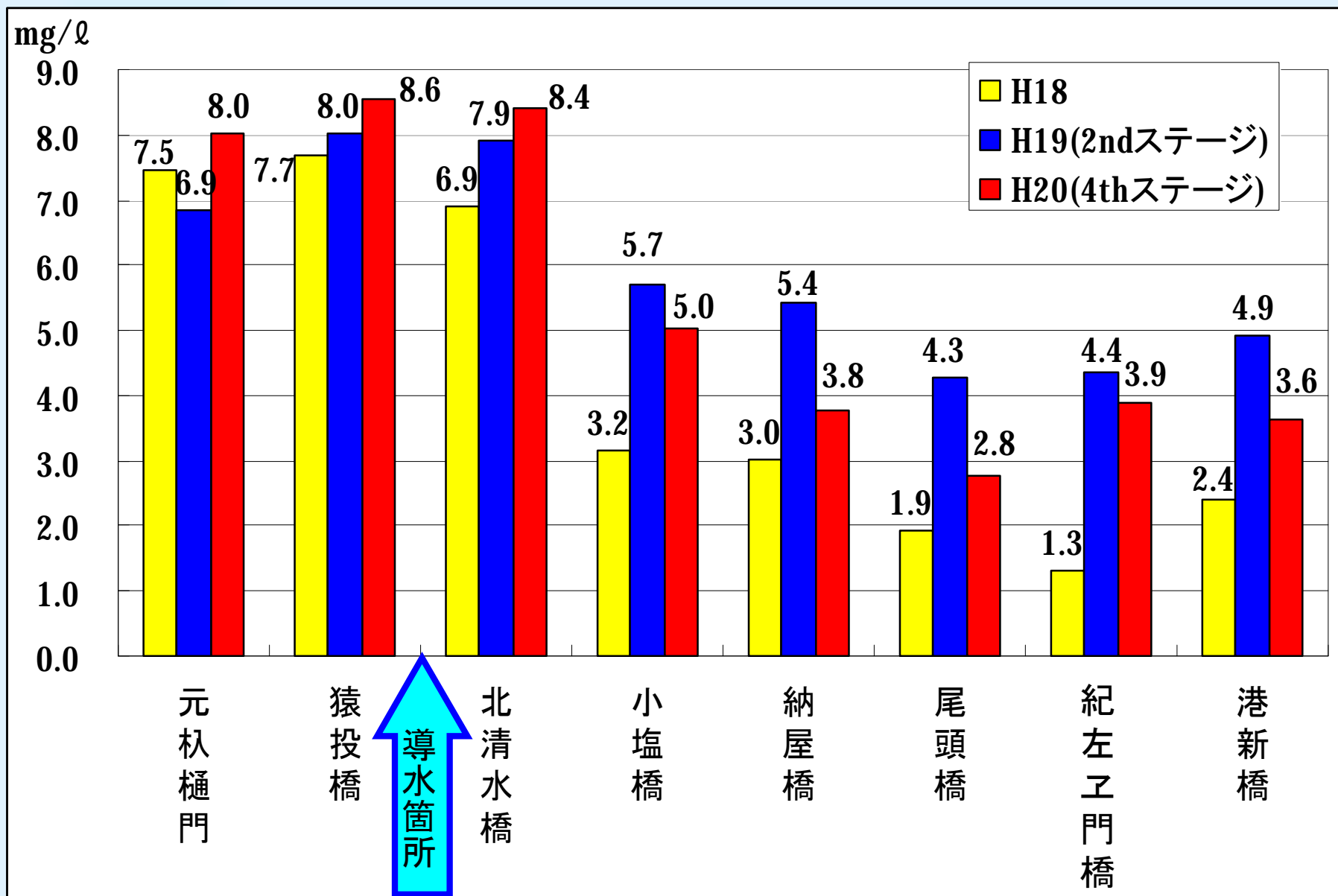


# BOD(生物化学的酸素要求量)調査結果(9月~12月の平均値)



※水質調査は、小潮の下げ潮時に行っている。 5

# DO(溶存酸素)調査結果(9月~12月の平均値)



※水質調査は、小潮の下げ潮時に行っている。 6

## 用語説明

### **BOD(生物化学的酸素要求量)**

水中の有機物が微生物によって分解されるときに消費される酸素の量を表します。川などに流入した排水中の有機物の量を微生物の活動によって測定するもので、河川の有機汚濁状況を示す代表的な指標です。

### **DO(溶存酸素)**

水中に溶けている酸素のことで、水生生物や、河川・湖沼の自浄作用には不可欠です。排水が流入して汚濁すると、DOは有機物の分解に使われて減少し、藻類が光合成を行うと増加します。DOが3mg /L以下になると魚などの生息が困難となります。